

# 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月 6日（金） 5校時  
学 級 2年A組 男子10名 女子10名 計20名  
場 所 2年A組教室  
授業者 教諭 蛸 島 茂 雄

- 1 単元名 筆者の表現の仕方について自分の考えを述べる  
〈君は「最後の晚餐」を知っているか〉 光村図書2年

## 2 単元について

### (1) 生徒観

生徒は、1年生「流水とわたしたちの暮らし」「シカの落ち穂拾い」の学習において、文章的部分と付加的な部分、事実意見などに着目しながら筆者の述べていることを読み、内容を要約する学習を行ってきた。また、2年生では、「やさしいの日本語」の学習において、文章全体と部分の関係や、具体的事例の役割などに注意して、筆者の主張を読む学習を行ってきた。このような学習を通して、筆者の主張を文章の構成や展開などに着目して読むことができるようになってきているが、構成や展開の工夫のよさについて自分の考えをもつことには十分とは言えず、また、根拠をもとにしない自分勝手な発想を持って考えを述べる生徒が多い状態にある。

そこで、本単元では、説明的文章の中でも筆者がある事柄に関して自分の価値観を示した評論文を扱い、内容の理解を図るとともに、筆者が自分の思いや考えを述べるために文章構成を中心にどのような工夫をしているかをつかむ学習を通して、構成や展開の工夫のよさについて自分の考えをもつ力を育てていきたい。

### (2) 教材観

「君は『最後の晚餐』を知っているか」は、生徒が初めて学習する評論の文章である。評論の文章は、「物事の善し悪しや価値などについて書き手の考えを述べた文章である。」（学習指導要領解説）とある。本教材は大きく序論・本論・結論から構成となっており、本論部分においては、「解剖学」「遠近法」「明暗法」の三つの科学的視点から分析され、筆者の価値付けである「カッコいい」判断材料としている。また、比喻表現をところどころに用いたりすることによって、内容を理解しやすくしているとともに、「カッコいい」という平易な言葉を用いて価値づけたりするなど読み手を引き付けるための様々な工夫が見られる。専門家の立場から、「最後の晚餐」について科学的な視点を示しながら筆者の考え方やものの見方を表現している。さらに、読者にわかりやすく親しみをもたせるため、「カッコいい」や「まず衝撃がやってくる」等の表現の工夫が見られる。文章全体を通して、筆者の視点が、イタリアの天才画家レオナルド・ダ・ヴィンチから始まり、名画「最後の晚餐」、絵の中心部分から周辺部、壁画が描かれている部屋、五百年後の「最後の晚餐」、二十一世紀の君へと変わってきていき、読み手は文章の中に誘い込まれていく構成になっているなど、読み手を引きつける工夫が随所で見られる。

作品である。

### (3) 指導観

本単元では、「C読むこと」の「イ 文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味など考え、内容の理解に役立てること」「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」を重点目標とする。そのために、言語活動例「イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現について自分の考えを述べること」を具体化し、「筆者の表現の仕方について考えを述べる」という言語活動を設定した。

具体的には、教材「君は『最後の晚餐』を知っているか」を読み、文章の構成や、具体的な例を示したり比喻表現を用いたりするなど読み手を引き付ける様々な表現の工夫についての自分の考えを述べ合うことである。

初めて読む評論の教材であり、評論を読むにあたり、教科書の「学習の窓」を用いて、「筆者の着眼の仕方やその順序、論理の展開の仕方に着目する。」「示されている根拠、使われている言葉や挙げられている事例などに着目する。」「表現のしかたや工夫に着目する」などについて確認させて学習に入る。

「最後の晚餐」について、どのような場面を描いたのかという、基本的な知識をもたせ、興味関心を引き出したい。その上で、筆者が伝えたかったものの見方・考え方について読み取らせたい。また、筆者の表現の仕方について、わかりやすく親しみのもてる表現の工夫に気づかせたい。

本文は、レオナルド・ダヴィンチが描いた壁画「最後の晚餐」に関する評論である。教科書にも挿絵があるが、大きく提示し、文章を読んで絵で確認させ読みを深めさせたい。

### 3 単元の目標

関心・意欲・態度	・「最後の晚餐」の魅力に気づかせるとともに、評論の文章を読む楽しさを味わわせ、ものの見方や考え方を広げようとする。
読むこと	・文章を読み、文章全体と部分との関係、例示の効果などを考え、内容の理解に役立てることができる。(読イ) ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(読ウ)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味をあらわす語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。[(1)イ(イ)]

### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①評論の文章を読んで内容や表現の仕方について考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。	①各段落が文章全体の中で果たしている役割を捉えたり、説明の仕方に注意したりして読んで、内容の理解に役立てている。(イ) ②評論の文章を読んで、文章の構成や表現の工夫について具	①評論の文章を読む際に、重要な役割を果たしている抽象的な概念を表している語句に着目し、その語句が表す具体的な中身を考えている。 [(1)イ(イ)]

	体的に捉え、自分の考えを持っている。(ウ)
--	-----------------------

5 指導と評価の計画 (全6時間)

時間	学 習 目 標	学 習 活 動	評 価 規 準
1	<p>評論を読むことについて確認し、文章に関心を持って読もうとする。</p> <p>筆者の表現の仕方について自分の勘絵を述べる。</p>	<p>「最後の晚餐」について知っていることを確認し、文章への興味関心を持つ。</p> <p>「この評論の良さを文章にまとめ、みんなに伝える」が学習課題であることをする。</p>	最後の晚餐について知識を持ち、興味をもって読もうとする。(関)
2	<p>文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」について考えをまとめることができる。</p>	<p>文章を読み、文章の構成をとらえる。</p> <p>文章を読んで、絵を見ながら「解剖学」「遠近法」「明暗法」について考える。</p>	<p>全体の構成について考え、序論・本論・結論に分けている。(読)ウ</p> <p>「解剖学」「遠近法」「明暗法」について、文章を読み絵で確認できる。(読)イ</p>
3	<p>「解剖学」「遠近法」「明暗法」の順に論を進めた筆者のねらいについて、自分の考えをもつことができる。</p>	<p>「解剖学」「遠近法」「明暗法」の絵への効果を確認し、筆者がその順で論を進めた意図について考える。</p>	<p>話し合いの場面で、根拠を持って自分の考えを発表し合うことができる。(関)</p> <p>筆者の論の進め方の工夫について、根拠を持って自分の考えを持つことができる。(読)ウ</p>
4	<p>修復された「最後の晚餐」魅力についての筆者の考えを理解することができる。</p>	<p>修復された「最後の晚餐」の魅力について、筆者が述べる本当の理由について考える。</p>	<p>本当の魅力について、読み取りまとめている。(読)イ</p>
5	<p>筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい」と思った理由について、根拠を明確にし、まとめることができる。</p>	<p>筆者が「最後の晚餐」をカッコいいと思う根拠を、文章から考え自分の考えをまとめる。</p>	<p>筆者が「カッコいい」と思っている根拠について、読み取っている。(読)ウ</p>
6	<p>筆者の文章の表現の仕方について考え、筆者の工夫について自分の考えをまとめることができる。</p>	<p>いくつかの着目点に基づいて、筆者の文章を分析し、表現の仕方について考えたことをまとめる。</p>	<p>文章の表現の仕方について考えている。(読)ウ</p>

## 6 本時の指導について

### (1) 目標

「解剖学」「遠近法」「明暗法」の順に論を進めた筆者のねらいについて、自分の考えをもつことができる。

### (2) 本時の評価規準

観 点	評 価 基 準	具体的評価基準	
		B (概ね評価できる)	C (努力を要する生徒への支援)
関心	話し合いの場面で、根拠を持って自分の考えを発表し合うことができる。	根拠をもった自分の考えをもち、発表することができている。	「解剖学」「遠近法」「明暗法」それぞれ絵のどこに視点があるか考えさせ自分の考えをもたせる。
読む能力	筆者の論の進め方の工夫について、根拠を明らかにして自分の考えをもっている。	筆者の論の進め方について、視点の広がりや読者の興味を引くところから論を進めているなどの根拠をもって説明することができている。	筆者の論の進め方の順が変わっていた場合や読者の視点がどう変化してくるかという視点を与え考えさせる。

### (3) 本時の構想

前時で学習した「最後の晚餐」についての基礎知識を確認し、授業序盤で、解剖学の観点から人物の描かれかたの工夫を読み取らせる。「最後の晚餐」は情報伝達の工夫としてテレビを使って投影する。また、その際 i フォンを活用して画像を操作できるようにし、生徒による発表をさせたい。

文章の読み取りをしっかりとした上で、論の進め方について考えさせたい。そのため学習シートの活用、視点の示し方の工夫、さらに参加の促進の工夫としてグループ学習を取り入れ、多くの生徒に発表させたい。

段 階	学習活動	指導の留意点 ユニバーサルデザインの工夫 (☆焦点化 ○視覚化 △共有化 ◆その他)
導入 3分	1 学習課題の確認をする。	△学習課題を板書しておき、ワークシートに書き込ませることで、全員が確認できるように留意する。 ◆一斉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【課題】 筆者の論の進め方や表現の工夫について考えよう。</div>
展開 4 2分	2 「解剖学」「遠近法」「明暗法」による絵への効果について、前時の確認をし絵を見て確認する。	・文章からこの絵がどのような場面を描いたものかを確認させ、裏切り者の表情や手のポーズはどうなっているか興味・関心を持たせる。また文章を拠り所として学習することを意識させる。◆一斉 ・「解剖学」の絵への効果を、前時学習したことをも

	<p>3 「解剖学」「遠近法」法の順に論を進めている筆者の表現の工夫について考える。</p>	<p>とに発表させ、黒板に提示することで全員に思い起こさせる。 ◆一斉</p> <p>○画像を示し、文章に書かれている手のポーズや表情に着目し、ユダを探すポイントを示し意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合い、他の人の見方・考え方に触れ、この後の話し合い学習が活発なものとなるよう意欲を高める。</li> </ul> <p>○画像を操作させながら発表させ、より分かりやすく伝わるようにする。 ◆一斉</p> <p>・「遠近法」による絵の効果を、前時学習したことをもとに発表させ、黒板に提示することで全員に思い起こさせる。 ◆一斉</p> <p>○画像を示し、文章に表現されていることと見比べさせ、確認させ比喻表現の効果について理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「明暗法」による絵の効果に前時学習したことをもとに発表させ、黒板に提示することで全員に思い起こさせる。 ◆一斉</li> </ul> <p>○映像を示し、明暗法の効果が見える効果があることを、全員に確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読みながら考えるよう指示を出し、文章をよりどころに考えるよう留意する。</li> </ul> <p>☆「解剖学」「遠近法」「明暗法」がそれぞれ、絵のどの部分に視点を与えていたかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に考えさせ、自分の考えをもたせる。また、考えがまとまらない生徒を確認し、考えるポイントを示し考えを広げさせる。</li> <li>・グループで話し合わせることで、いろいろな考えに触れさせ見方・考え方を広げさせる。</li> </ul> <p>△いくつかのグループに発表させ、いろいろな考えに触れさせ、自分の考えと比べさせることで意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表について、意見を書かせることで自分の考えをまとめさせる。</li> </ul>
5分	7 今日の授業のまとめを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論を読むことの楽しさや、さらに知りたいという気持ちを持たせたい。</li> </ul>

## 7 板書計画

学習の流れ					君は「最後の晩餐」知っているか
①本時の課題確認				課題	筆者の論の進め方や表現の工夫について考えよう。
②前時の復習					
③表現の工夫について考える					
④まとめる					

論の進め方の工夫

- ・ 科学的な視点で捉えている。
- ・ 部分から絵全体、そして部屋全体に視点を変えている

明暗法	遠近法	解剖法
食堂の延長に見える	絵の主人公がキリストとわかる	手の形で心情を表している